7 自己の生き方を考える総合的な時間

多くの学校では、「育成を目指す資質・能力」を明確にし、他教科等との関連や地域との関わり、体験活動等を重視した年間指導計画等の見直し、改善を図っています。また、児童生徒が「情報の収集」や「まとめ・表現」の場面でＩＣＴを効果的に活用したり、学習のまとめから新たな課題を見付けたりできるよう、教師が意図的に働きかけながら探究的な学習の充実に努めている学校が増えています。

学習指導要領に示された目標及び趣旨を踏まえた上で、**全体計画**、**年間指導計画**、**単元計画を適宜見直す**ことが重要である。その際、教科等の枠を超えた**横断的・総合的な学習**かつ**自己の生き方を考える**ことに結び付く**探究的な学習**となっているかを意識すること。

指導に当たっては、体験活動や言語活動を充実させ、他者と協働的に学習に取り組む態度を育てることが大切である。

各学校における「目標」及び「内容」の設定

◎　各学校においては、学習指導要領に示された第１の目標及び各学校における教育目標を踏まえながら、総合的な学習の時間を通して**「育成を目指す資質・能力」を明確に**示すこと。その際、他教科等との関連及び日常生活や社会との関わりを重視すること。

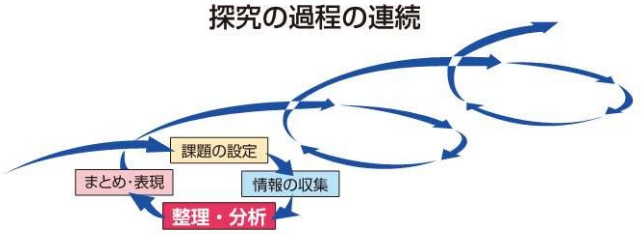
○　内容については、「目標を実現するにふさわしい**探究課題（何について学ぶか）**」及び「探究課題の解決を通して育成を目指す**具体的な資質・能力（どのようなことができるようになるか）**」が適切に設定されているか見直し、その改善に努めること。

意図的な指導・支援と学習状況の適切な評価

◎　探究の過程においては、他者と協働して主体的に課題を解決しようとする学習活動を重視しつつ、適宜**教師が意図的な働きかけ**をすること。特に、**「整理・分析」**の場面が重要であり、**思考を深める活動の充実**に努めること。その際、例えば、比較する、分類する、関連付けるなど、考えるための技法が活用されるようにすること。

○　**評価の観点及び評価規準を明確**にし、その方法や場面を工夫しながら、一人一人の学習状況を適切に評価すること。

探究の過程の連続



探究的な学習の充実のために～ICTの効果的な活用例～

探究的な学習の充実のために、ICTを効果的に活用して、情報を収集・整理・発信するなどの学習活動が行われるように工夫すること。あわせて、各教科等の学習においても総合的な学習の時間の学習との往還を意識し、効果的な活用を図ること。

課題の設定（体験活動等を通して、課題を設定し課題意識を持つ。）
（例）**写真や動画、音声データを活用した課題の具体化や焦点化等**

情報の収集（必要な情報を取り出したり収集したりする。）
（例）**インターネット検索、電子メールによる質問、ウェブ会議システムを活用した取材等**

整理・分析（収集した情報を、整理したり分析したりして思考する。）
（例）**表計算ソフトによるデータ等の整理・分析、グラフの作成、思考ツールの活用等**

まとめ・表現（気付きや発見、自分の考え等をまとめ、判断し、表現する。）
（例）**文書作成ソフトによるレポートの作成、プレゼンテーションソフトによる発表、ウェブサイトによる発信等**

8 なすことによって学ぶ特別活動

多くの学校では、学級活動の内容（1）（2）（3）それぞれの特質を踏まえた学習過程を重視し、児童生徒にとって必要感のある議題提案や題材設定を工夫しながら、児童生徒が主体的に話し合える授業づくりに努めています。また、体験的な活動においては、各自の目標や活動後の振り返りが記入された掲示物等も活用しながら事前・事後の指導を行い、目指す資質・能力を育成しています。

特別活動は、様々な集団活動に**自主的、実践的**に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の**課題を解決**することを通して、**自己実現**を図ろうとする態度等を養うことをねらいとしている。

指導に当たっては、特別活動で育成しようとする資質・能力、学習過程及び評価等について、全教職員で共通理解を図り、指導を重ねていくことが大切である。

学校生活や学習の基盤となる集団づくりの推進

◎　学級においては、**学級活動のすべての内容を意図的、計画的に指導**すること。その際、**内容（1）（2）（3）のそれぞれの特質を踏まえた学習過程となるよう留意**すること。特に、内容（1）においては、話合い活動を充実させるため、議題の扱い方や合意形成を図る学習過程（出し合う、くらべ合う、まとめる等）を踏まえ、義務教育９年間を見通して活動の積み重ねや経験を生かしながら適切に指導すること。

◎　多様な集団活動を通して児童生徒を理解し、一人一人の自尊感情を大切にするとともに、**よりよい人間関係や居がいのある学級集団づくり**に努めること。

一人一人のキャリア形成と自己実現

◎　**特別活動がキャリア教育の要**であることの趣旨を踏まえ、特に学級活動の内容（3）においては、異校種間のつながりを考慮しながら、基礎的・汎用的能力を育成する**キャリア教育等との関連を図り**、児童生徒が自己実現に向けて取り組めるようにすること。

○　児童生徒自身が自分の成長や変容を把握し、生活の改善に生かしたり、将来の生き方を考えたりする活動を行うこと。その際、「キャリア・パスポート」を計画的に用い、児童生徒が自らの学習状況を見通したり、振り返ったりできるよう活用を工夫すること。また、進学時には学校間での引継ぎを確実に行い、**児童生徒の学びをつなぎ次の指導に生かす**こと。

（参考資料）8－①②

ねらいを明確にした体験的な活動の実施

◎　各活動や学校行事における体験活動の実施においては、育成を目指す資質・能力を踏まえた計画の下、**ねらいを明確**にするとともに、**事前・事後の指導の充実を図る**こと。特に、事後の指導においては、児童生徒が学びの手応えを実感し次の活動や課題解決に生かせるよう、振り返りを充実させること。

社会的・職業的自立に向けたキャリア教育

キャリア教育で育てたい力である基礎的・汎用的能力は、学校の教育活動全体を通じて育成されることが期待されています。中でも、人間関係形成・社会形成能力は特別活動における集団活動を通して形成することができる力です。

キャリア教育では、学習内容と将来の職業や生活とを関連付け、主体的な進路の選択・決定に導くことが課題となっています。指導においては、地域の実情や児童生徒の実態を踏まえ、組織的、系統的に実施できるようキャリア教育の視点で教育課程を見直し、活動後の振り返りを適切に行うなど、改善・充実していくことが大切です。

特別活動に関する参考資料へのQRコード